

【第1分科会 「家庭教育」】

出席及び報告者：八戸市連合 PTA 副会長 久保田 諭

① 会場・規模 :王子町文化福祉センター 出席者数 : 約 200 名

② 日程 令和8年8月21日(金)

13:00~13:30 受付

13:30~13:40 開会行事

13:40~14:55 基調講演

14:55~15:10 休憩・転換

15:10~16:20 パネルディスカッション

16:20~16:30 閉会行事

16:30 終了

③ 内容 ※講師、テーマなどについては別紙本大会資料をご参照ください。

1、第一部 基調講演 概要要約

講師は「木村泰子」氏。大阪市立大空小学校初代の校長。子どもを育てていく上で、家庭・地域・学校の在り方について、大空小学校を初年度から運営してきた体験や経験談を元に講演が展開された。そもそもの学校も社会の縮図であるということ、そして共生社会を目指した学校づくり、家庭教育が必要であることが話の軸として講演された。また、講師は関西の方ということもあり分科会のテーマの「笑」にも気を使いながら講演されていた。

1-2 講演内容/印象に残ったこと。

- ・「大空小学校は普通の学校」

社会において多様な人たちがともに生活をして社会は成り立っている。それを学校という範囲に置き換えると、個性豊かな子どもがともに学校生活を送る大空小学校は特別な学校ではなく、普通の学校である。

- ・「子どもも大人も自分のことばで語る」

自分のことばで相手との対話をしていくことが大切。この対話から学びが生まれる。なんでも自分で抱えこまないで相手に伝えることが重要。気楽に人に頼ればよい。頑張るだけで解決できる世の中ではない。特に大人が自分のことばで上手く語れていないのに子どもができるはずがない。大人も子どもと共に一緒に学んでいけばいいと思う。

- ・「どんな社会をつくりたいか。そのためにどんな子どもに育ててもらいたいのか」

木村氏の教育のもとには、未来に社会がどうあって欲しいか、そのためには子どもたちがどのような大人になって欲しいのかが、教育の一つのポイントになっているのだと感じた。

- ・「見えない学力の大切さ」

【人を大切にする力】 【自分の考えを持つ力】 【自分を表現する力】 【チャレンジする力】

これらの見えない学力を優先すると、自己評価—メタ認知能力が習慣化して、自ずと見える学力も向上するそうです。まずは、大人がこの4つの「見えない学力」を身に着けるべきである。

1-3 まとめ

講演内容の印象に残ったことでも述べたが「どんな社会を作りたいか」「子どもたちが大人になったときにどのような社会で生きてほしいか」を考えると、自ずと子ども中心の家庭・学校・地域の「わ」が見えてくると感じた。たくさんの個性が輝きそれぞれが活躍する社会において、子どもが個性を輝かせながら大人になることは必要不可欠であり、単一統一的な教育からすべての子どもが共創できる学校を自分たちで作ることが重要です。学校づくりにおいて、保護者はサポーターであり、PTAと学校は「学校づくり」のパートナーになることで学校に変化が生まれ地域も変わると、大空小学校の体験より講演され、家庭での教育や学校、地域とPTAの在り方についても学ぶ機会となった。

2、第二部 パネルディスカッション・スペシャルスピーチ 概要要約

パネリストだけが壇上で話すのではなく、会場からの質問に答える形でパネルディスカッションは進んだ。特に学校で起こっている課題に対する質問が多く、大空小学校やパネリストの学校での実例が紹介された。そこから基調講演では出なかった話題も出て有意義なパネルディスカッションだと感じた。

スペシャルスピーチでは、中学生の入江爽太さんが個性あふれるスピーチを行い、会場が和やかな雰囲気包まれた。

2-2 講演内容/印象に残ったこと。

- ・「トラブルがないと子どもが育たない」

とある学校のトイレの問題。学年別でトイレを分けているのだがきれいなトイレ、汚いトイレが校内にあり、他の学年のトイレを使用することの賛否と解決策について。 解決案としては学年でのトイレ使用場所を決めないこと。決めないことでトラブルが起こる。それをどう可決していくか考え行動することが学びとなる(例えば話し合うなど)

- ・「大人が楽しむ」

コロナ禍以降、PTA活動で参加者が減ってきた。どうしたら参加してもらえるようになるか。解決案として、まずは参加している本人(大人)が楽しむことが大切であり、その楽しい姿を見て他の人もやってみたいとなると思うという意見が出た。

- ・「2030年、学習指導要領が変わる」

会場の方の教育に関する質問から出てきた話題。子どもたちが自ら学び、多様性を推進する方針に大きく転換する内容になっているとのこと。みんなの学校が日本中に展開される時代になってきたと感じた。

- ・「スペシャルスピーチ」

個性的なスピーチでした。受けなかったらどうしようと私であれば考えてしまうが、自信をもって躊躇なくパフォーマンスする姿が素晴らしかった。スピーチ後のインタビューで本人は「大人が聞いてくると思って発表している」と述べていた。まさに自己評価がある結果だと思う。

2-3 まとめ

パネルディスカッションは、会場のお客さんの暖かさとパネリストの雰囲気で一方通行でない明るいものになると感じた。このようなやり方もありではないかと感じた。一方でパネリストの能力も必要になるのが課題点だとも感じた。

2030年に学習指導要綱が大きく変わるそうです。多様性を育んでいく内容に大きくシフトしていくそうです。特別扱いをされていた大空小学校が、未来では全国どこでも当たり前になることだと思った。講師の木村先生曰はく、大空小学校は特別ではなく、正解主義と同調圧力の時代ではなくなっているとのことだ。まずは自分のことは自分で決め、自分の判断に責任を持つ大人であることが、子どもを育てることにとっても重要なことだと感じた。また、子どもの個性や学校での悩みを抱えている保護者も多いことを八戸市連合PTAの研修会を通じて感じた。このような話題・課題に関する内容を、県Pや市連合PTAでも情報提供できる一つの案として取り組んでも良いのではないかと感じた。

最後に余談になるが、個人的見解ではあるが、全国的に学校の統廃合で使われなくなった校舎も多く存在する。2030年の学習指導要領の変更もあるので、空き校舎を「みんなの学校」のモデル校で運用したらいいのではないかと思います。当然課題は多いと思った。